

これからは「シルバー」よりも「ゴールド・エイジ」で！

不透明な未来と時代状況のなかで、定年後の人生について気にしている人も多い。年金はもらえるのだろうか。定年後も職場に残れるのだろうか。新しい働き口はあるのだろうか・・・。

筆者はこの3月で67歳、定年7年目を迎えたところです。少しばかり早く定年になった“先輩”として、後に続く皆さん、また同輩・先輩のご参考になればと、私の来し方を紹介してみたいと思います。

「遅くも5年前から定年後の設計を考えよ」とよく言われています。長寿時代の今は、定年後も平均20年の人生があります。100歳も珍しくなくなってきた昨今、まだ40年も生きる人も出てくるでしょう。となると、これは現役時代に匹敵またはそれを超える長さです。「余生」どころか、「もう一つの人生」があるとも考えられます。となると、その第二の人生をどう充実させていくかが課題となってきます。

私は自分の余命を最低20年とし、60歳から最初の5年間をそのための“投資期間”と決めました。定年1年目には自宅近くの横田基地内にあるアメリカの大学に聴講生として学び、2年目にはスペインの大学に1年間、留学しました。今、「定年後を海外で」というロングステイが静かなブームになっていますが、そのロングステイをしながら次の人生のための勉強をしてきたところです。



妻と一緒にスペイン生活はすばらしく充実したものでした。しかも生活費は日本より安かった（ほぼ半額）。

ただ私の場合、取材や活動でスペイン各地を訪ねたり、**スペイン・マラガ大学のクラス**所要で何回か日本を往復したので、その分、余計にかかっています。帰国後、「定年留学してみませんか？——60歳からのアクティブライフのすすめ——」との本を自費出版しました。これら諸費用を合算すると、平均的な退職金の約1割を“投資”した計算になります。

果たして“投資”はその後、大きく花開いてきたのです。本の出版は、予期もしなかったに日本ペンクラブ入会の用件の一つとなり、留学体験は海外留学アドバイザーの資格を得る要因ともなったのです。一方では、インターネットに載せる都立高校の「国際理解」の教材の作成にもあたりました。

現在は、シルバー人材センターで週4日ほど駅前の自転車管理の仕事をする傍ら、元の職場で週2日、来日したSGI（創価学会インターナショナル）メンバーのアテンドや、留学する日本人学生のアドバイス等に当たっています。また、立川多文化共生センターで、在日外国人支援のボランティア活動に参加。地元昭島市の市民大学への参加が機縁となり、自ら講演をしたりもしています。

そしてさらに大きな収穫——それは留学がきっかけとなり「世界文学紀行——名作の舞台を訪ねて——」なるライフワークに目覚めたことです。1作目は、3年前、出版400周年を迎えた「ドン・キホーテ」の舞台を訪ね、セルバンテスの生地から、ドン・キホーテが風車



ラ・マンチャの風車

に向かって突進したラ・マンチャの平原を訪ねました。2作目は、一昨年、やはり出版70周年を迎えた「風と共に去りぬ」の舞台、アトランタとニューオーリンズへ。昨年は、番外編「名曲の舞台を訪ねて」として、パナマ人作曲によるラテンの名曲「ある恋の物語」の舞台を訪れたのでした。そして今年は、出版100周年となる「赤毛のアン」の舞台、カナダのプリンス・エドワード島を予定しています。

これらの海外取材費は、その原稿料でまかなえるのが理想ですが、まだそこまでは届きません。自分の力からして今は半額をカバーできれば“御の字”と思っています。自らが楽しんでくるわけだし。不足分は先の仕事からの収入で補っているところです。そしてありがたいことは、この取材旅行に必要な1週間から10日あまりの休みを、いつでも取れることです。もし、これが“現役的”仕事をしていたら、今の日本ではとても無理でしょう。収入は少ないけれども、アルバイト的な仕事なるがゆえに、時間的にも自由になり、旅の計画をできるのは実にありがたいことだと思っています。

これらの体験から、もし定年後の生活の目安がつくなら、是非、若いころにできなかった夢に挑戦することをお勧めしたいと思います。現役から開放されたあなたは、なんでも自分のやりたいことをできる“権利”があるのです。

定年後も同じ職場に残れる人は恵まれていると言えるでしょう。半面、この大事な人生のすべてを仕事だけに費やしてしまってもよいのか、との見方もあります。私の友人にも、人の羨むような定年後の嘱託のオファーを辞退して、自分の好きな道(母校の野球部監督)に進んだ人もいます。

世間では私たちの世代を“シルバー・エイジ”と呼んでいます。こうした観点からすると、私は「シルバー」(銀——白髪をきれいな言葉でそう称したのでしょ)どころか、“ゴールド・エイジ(黄金の年代)”と呼ぶべきだと思うのです。

ドン・キホーテは独り言でつぶやいています。

——「理想と正義に向かって突進するオレのことを皆はおかしいと言う。でも、やりたいことがあるのに、世間の風評、体面なんかを気にして現実に妥協、やろうとしない彼らこそおかしいんじゃないのかね……」



未来の舞台は大きく広がっています。その意味では「定年万歳！」とも言える人生の第二のスタートです。お互いに「ゴールド・エイジ」を輝いていきたいものです。

今は“Seniors be ambitious! (壮年<老年>よ大志を抱け!)”の時代ですから……